

質問

58歳の夫が3年前にC型肝炎との診断を受け、最近では腹水がたまる▽ぼんやりする▽夜に眠れず昼間に寝ているといった症状が出ています。今年5月には肝臓に影が見つかり、主治医から、今後の治療は移植しかないとの説明を受けました。どんな治療で、どれくらいの費用が必要なのか不安です。どこに相談すればよいのでしょうか。

がん何でもQ&A

答え

わが国では年間3万5千人の方

が肝臓がんで亡くなっています。がんになる原因の80%はC型、B型などの肝炎ウイルスによるものですが、大量のアルコール摂取なども原因となります。最近では、メタボリックシンドロームや糖尿病などの生活



宇都宮 徹

徳島大学病院
消化器移植外科准教授

肝臓移植の治療法・費用

習慣病も、肝臓がん発生の原因として注目されています。

肝臓がんの治療には、手術による切除や、がんを栄養している動脈をつぶす塞栓術、針を皮膚から肝臓の中まで刺してがんを焼くラジオ波焼灼術などがあります。移植しかないと言われたそうですが、こうした他の治療によって根治ができない非代償性肝硬変の状態であると考えられます。

最近では、肝臓がんに対して肝移植が保険適応となつていますので、適応基準を満たせば移植医療を受けることができます。その基準は主に①病気の原因が肝臓にあり、肝移植によって元気に生活できる可能性がある②従来の治療法では生命を救うことができず、その治療が限界である③他の臓器に転移がない④といったものです。

肝臓移植医療には、死体(脳死)肝移植と生体部分肝移植があります。

あります。

脳死肝移植を受ける場合は、日本臓器ネットワークに登録が必要で、保険適応の患者が登録できます。ただ、わが国では1997年10月から脳死移植が可能になりましたが、その後10年間で62例の臓器提供が行われたにすぎず、肝臓移植はわずか40例でした。

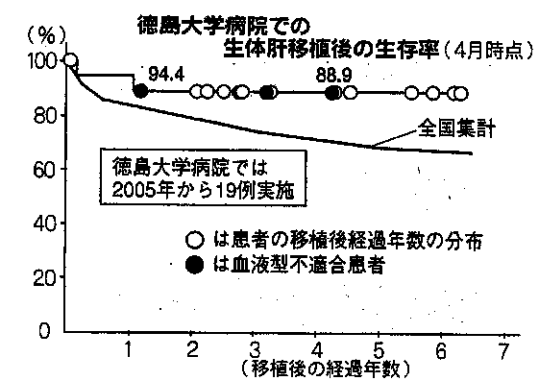
2010年7月に、15歳未満の子どもを含めた脳死者からの臓器提供を、家族の同意だけで可能にする改正臓器移植法が施行されました。同年8月から11年6月までの脳死下臓器提供は50例と、改正前に比べて明らかに増加しています。しかし、今年6月24日現在の肝臓移植希望登録者は343例あり、脳死肝臓移植を受けられる機会はまだまだ少ないといえます。

脳死肝移植医療が進まないのが国では、生体肝移植が主流となつています。生体肝移植では、健康な人の肝臓を部分的に切除し、患者(レシピエント)に移植されます。自発的な意思で肝臓提供者(ドナー)になる家族(近親者)がいて、肝臓のサイズが合うことが最低条件と

なります。

脳死肝移植も生体肝移植も▽ドナーがいないと成り立たない医療である▽生体ドナーは健康体であるが、手術にはリスクを伴う(生体肝移植▽家族の中で同時に二人も手術を受けることになる)▽家族のサポートなしには乗り越えられない▽高額な医療費がかかる▽レシピエントは生涯免疫抑制剤を必要とする▽ドナーを取り巻く社会環境についての情報提供を必要とする―ことを理解し、まず本人が自分の病状を把握した上で、移植を受けたいという強い意思、家族がサポートするという強い

意思があることが大切です。費用は、保険適応の場合には他にも利用可能な制度があり、患者によって異なります。保険適応外の場合は自費になり、約1000万円〜1500万円が必要



相談室設置専門家が対応

質問募集 がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8572 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター〈電話088(633)9438〉でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。

徳島大学病院には肝臓移植医療の専門家があり、全国的にも遜色のない成績を挙げています《グラフ参照》。また、同病院内に肝疾患相談室(電話088・633・9002)を設置しています。肝臓病に関することならどんなことでもお受けする体制が整っていますのでお気軽にご相談ください。